

2024年1月1日16時 地震発生（令和6年能登半島地震）

1月2日 7時 氷見東組長より氷見市の広範囲での断水により飲料水が必要との連絡あり。

同9時 震災への対応と状況把握のため高岡教区教務所長と高岡教区職員2名の計3名が西本願寺高岡会館内高岡教区教務所に集合した。

高岡教区組長会長も会館を訪れ、西本願寺高岡会館の建物被害状況を確認。

2階の茶室天上一部崩落、壁の一部ひび割れなど確認。災害対策委員会を1月10日に召集し、事態への対応を協議することを決定した。

1月9日を期限に各組長への組内寺院の被害状況の取りまとめ依頼を1月2日にFAX・メールにて送信した。

また、氷見市を中心とした断水による飲料水の不足への対応として高岡教務所近隣の量販店などで飲料水及びポリタンクの調達を行い、18ℓポリタンク25個、20ℓポリタンク3個、10ℓポリタンク1個、500ml飲料水×102本を調達。

購入したポリタンクの全てを洗浄後、飲料用の水を詰めた。

氷見三組の全ての寺院に行き渡す個数は確保できなかったが、氷見組にポリタンク13個・500ml飲料水×24本、氷見東組にポリタンク8個・500ml飲料水×24本、氷見西組に7個・10ℓポリタンク1個・500ml飲料水×24本を届けることとし、教務所長・職員2名が自動車三台にて分乗し、氷見三組の各組長宅を訪ね、上記の割り当てで飲料水とポリタンクを配布した。帰路の途中で氷見市と隣接している伏木地区の状況を確認するため、職員が伏木組長宅を訪問し500mlミネラルウォーター×30本を届けた。

そこで伏木地区全体が断水していることを確認。この日の作業を終えた。

1月3日 11時 伏木組に届ける飲料水の調達のため、量販店などを回るもポリタンクは品切れ、飲料水も購入制限があったため、店舗を巡って2ℓ飲料水×39本、500ml飲料水×65本を調達した。

同12時30分 教務所長と職員1名が伏木組長宅を訪ね、組長を含め三人で伏木組内寺院13か寺を訪問して1か寺あたり2ℓ×3本と500ml×5本を配布するとともに被害状況を調査。ほとんどの寺院では、一部壁の剥離や仏具等の落下などの被害にあったものの建物には大きな被害を受けてはいなかった。しかし、伏木錦町では周辺道路で大規模な液状化現象が発生した影響を受け、庫裏・本堂は建物が傾斜して歪み、ひび割れや建物のつなぎ目に大きなズレを生じた。寺標と隣接する電柱もともに大きく傾き危険な状態。鐘楼堂は完全に傾斜。境内・墓地に多量の土砂が流入。近くの別寺院も本堂・庫裏建物が傾斜し隣の家が傾き寺院の建物にめり込み、破損し穴が開いた状態。内部も住めるような状況ではないと報告を受けた。更に別の寺院は境内地の施設が地盤沈下により20センチ沈み、

一階部分に泥水が流入、2階のボイラーが倒れ損傷、給水システムが使えない状態にある。少し離れた場所にある寺院でも鐘楼の土台部分に大きなひび割れが入るなどの液状化による被害が確認された。伏木地区の寺院に飲料水を配布し、いったん解散し帰路に就いた。

同 15 時 訪問した寺院では住職が流入した土砂を一人で掃除しており、また他の被災した寺院は、側溝が泥で埋まったままで人手が足りず手つかずの状態。早急に人員の手配が必要な状態であったため、職員が近隣地域に住む本誓寺若院に声をかけ、スコップを持って2人で被災した寺院の側溝の泥出しに着手した。被災寺院の近所に住む青年たち10名余りが手伝ってくれたこともあって、その日のうちに寺院前の側溝の泥出しと排土を土嚢袋に詰める作業は完了した。17時半撤収。寺族青年会会長に連絡を取り、人員の派遣が必要なことと、必要な道具について連絡。寺族青年会は明日、氷見市の寺院に飲料水を届ける仕事があるため、終了次第人員を派遣することを打ち合わせした。

1月4日 13時 職員1名・本誓寺若院・友人の計3名で引き続き伏木地区の被災寺院二か寺の側溝の泥出し作業。昨日手つかずとなった避難中の隣家の側溝と昨夜の雨で再度半分ぐらい埋まった側溝を泥出し。新湊地区の僧侶や門徒推進員の方も手伝いに来ておられ、また大越仏壇からの人員が墓地の土砂掃除を担当。被災寺院の近隣住民も手伝っていただき、側溝の掃除は順調に終了した。続いて地盤沈下した施設の寺院にて溜まった土砂を土嚢袋に詰める作業を行い17時前には作業を完了した。この日の午前中に伏木地区の断水はほぼ解消され、トイレが使える状態となった。

1月5日 13時 職員2名・本誓寺若院・友人の計4名で引き続き伏木地区の被災寺院三か寺の泥出し作業。側溝の泥出しについては側溝のふたが開かない箇所があり、可能な場所のみ泥出し作業。寺族青年会会員とOB合わせて10名近くが作業に訪れ、墓地から運び出された土砂を土嚢袋に詰める作業、及び境内に流れ出た土砂を土嚢袋に詰めて掃除する作業に従事。被災寺院の近隣住民の手助けや大越仏壇からの人員もあり、相当数の人員で作業をした結果、17時前には全ての作業を完了。あくまでもその時点での話ではあるが、被災寺院三か寺の泥出し作業はひと段落ついた。

1月6日 13時 光慶寺より20ℓ飲料水タンク×24個を寄付いただき、氷見市の寺院に飲料水を配布することを検討するが、情報収集の結果、氷見市の各地域で水道が復旧し、断水した地域にも給水車が来るようになり、特に必要ないとのことであった。今後、石川県の被災地域にて飲料水タンクが必要になることも予想されるため、そちらへの備えとして備蓄しておくこととした。

1月10日 14時

災害対策委員会を招集。高岡教区内の被災寺院の数が多いため、行政の建物の損壊基準に応じて見舞金を支出することに。また、義援金の募集を行うものの、被災寺院や被災された門信徒も多いため、義援金口座開設の案内に留め、募集の依頼そのものは行わないこととした。

支援活動については現時点で高岡教区内に支援班の派遣の必要な要望が寄せられていないことと、石川県の本願寺金沢別院内に災害対策本部が設置されたものの、今の段階では七尾・珠洲・輪島にボランティアが立ち入れないため、今後の情報を待ってからとすることとした。

(上記は2024年1月11日現在までの対応一覧)

以上

※本文はネット上への掲載を考慮し個人名固有名の表記にプライバシーを配慮した表現に変更しています。